

## 中村保・訪欧報告(イタリア編 2010.4.19~5.5)

今回のヨーロッパ旅行の目的はイタリアでの「ヒマラヤの東チベットのアルプス」の講演でした。そのきっかけをつくってくれたのが、湖水地方・コモ湖の東南端のLeccoにベースを置くイタリア最大手の登山アウトドア用品販売会社

「Sport Specialist」でした。北イタリアで8箇所の巨大なアウトレット・モールを展開し、ヨーロッパで唯一、山岳関係の講演者を招待して毎月イベントを開催しています。社長の Sergio Longaniさんは登山家であり、地方の名士でもあります。その会社のコンサルタントでLeccoで出版されている山岳誌”Stile Alpino”の編集に携わっているFabio Palma さんが小生の招聘を進めてくれました。

4月22日・午後

「Sport Specialist」の本社で30名ほどの気鋭のクライマーに「2009年秋の東チベット踏査行」の講演をしました。その夜は巨大なアウトレット・モールで400人を超える聴衆を前に3カ所のスクリーンを使って「チベットのアルプス」のライドショーをしました。これほど多くの人に熱心に見てもらったのは初めての経験です。感動しました。日本では想像もつかないことです。



講演の案内



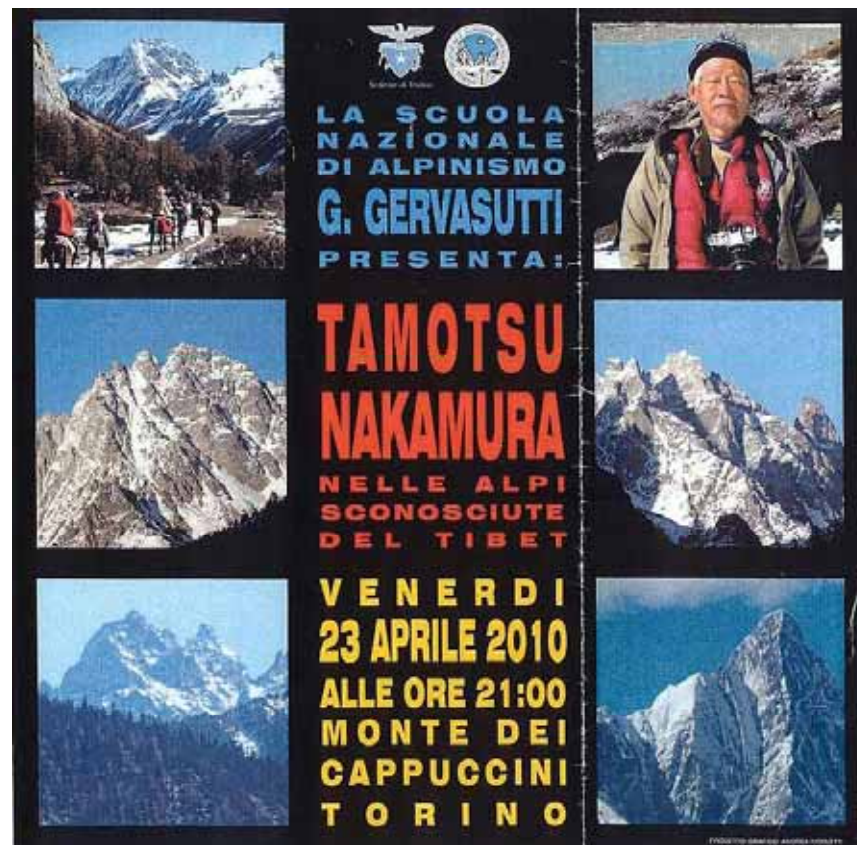
講演風景

4月23日・夜

トリノの山岳博物館で80名ほどの出席者に講演をしました。

博物館はポー河を見下ろし、トリノの街の彼方にアルプスを望める絶好のロケーションにあります。150年ほど前に修道院だった建物を利用し、アルプスの展望台を兼ねて博物館が造られたと館長さんが説明してくれました。

ちなみにCAIの現在の会員数は約30万人、英国Alpine Clubの系譜から外れて、クラブというよりはドイツ山岳会(会員70万人)のように協会的な運営をしています。伝統に固執し時代の流れに対応できない集団であるとの批判の声も聞かれますが、トレントのフィルム・フェスティバルを支援するなど活発に活動しています。日本のようにJACの他に複数の協会・連盟が並立してはいないようです。





イタリア山岳博物館



山岳博物館図書館

5月3日

ベローナからローカル線を乗り継いでベルガモ北東のイタリア・アルプスを望む避暑地(ミラノの金持ちの別荘が多い)に行き、そこで講演をしました。ソングバツソという600人ほどの小さな村の大きなレストランが会場で100名ほど集まってくれました。スライドショーの後フルコースのディナーで夜の12時近くまで賑わいました。

フェスティバルの案内と新聞の紹介記事



## トレントフィルムフェスティバル

フェスティバルは4月29日から5月9日まで開催されました。今年で58回を迎えた世界で一番歴史のある山岳関係のフィルム・フェスティバルです。25年前からMontelibriブックフェアも始めました。ドロミテの玄関ポルツァーノとトレント市の市議会とイタリア山岳会(CAI)がパートナーとして企画・資金集めを担ってきました。

今年は若手のイベント関係者と登山家のチームが協力しプロジェクトの設計・遂行にあたってきました。

350以上の新しいフィルム・映像が世界から提供され、ブックフェアには2008 - 2009年の新刊本とジャーナルが紹介されていました。

12 mercoledì 5 maggio 2010

FILMFESTIVAL

L'Adige

*L'esploratore ha scoperto oltre 250 «seimila» inviolati: oggi si racconta, mostrando immagini di 30 spedizioni*

# Nakamura e il Tibet mai visto

FABRIZIO TORCHIO

**P**iù di 250 colossali «seimila», mai scalati e noti quasi esclusivamente ai locali. Diecento nella zona del Nyanqenangla, un'altra ventina nel «paradiso» Unesco del Deep Gorge Country, solcato da un reticolo di fiumi, dove scintillano enormi pareti di ghiaccio e roccia con vette stupende, come la sacra piramide del Kawakarpo, la più alta dello Yunnan con i suoi 6740 metri. «Esplorazione» può sembrare una parola fuori posto nel mondo globale costruito dai satelliti, ma rende l'idea del grande lavoro di documentazione che il sismologo Tamotsu

**IN ALTA QUOTA**

Tametsu Nakamura nello scenario glaciale del Tibet orientale con gli yak in marcia: il fotografo giapponese ha effettuato una trentina di spedizioni nella regione documentando più di 250 «seimila», mai scalati e noti quasi esclusivamente ai locali.

attraversati. Un lavoro poderoso, riassunto in un libro per ora tradotto in tedesco, *Die Alpen Tibeta. Ostficha dei Himalaya* (Detjen Verlag). Tamotsu Nakamura racconta le sue esplorazioni del 2009, mostrandone le straordinarie immagini, oggi alle ore 17 nella sala della Fondazione Cassa di

**E quando ha iniziato i suoi viaggi in Tibet?**  
«Nel 1989 ho visitato lo Yunnan e sono rimasto colpito dalle vette innevate; successivamente ho ripetutamente visitato la regione e il Tibet orientale, che ancora oggi è l'ultima frontiera dell'esplorazione. Nel corso di trenta

spedizioni ho scoperto oltre 250 cime mai scalate. Le cose tuttavia stanno cambiando velocemente: c'è l'arrivo dell'elettricità, sono state fatte nuove strade, ci sono le motociclette. **Turisti e alpinisti incontrano difficoltà nell'ingresso in Tibet orientale?**  
«L'anno scorso ho trascorso

sei settimane in ottobre e novembre ma è stato molto difficile entrare, a causa del problema storico del Tibet e di altri fattori. Il 49° anniversario della regione autonoma del Tibet è stato celebrato ad esempio con uno stretto controllo: una cosa che si ripete in occasione di eventi come le Olimpiadi o l'Expo. La

## ブックフェスティバル展示書棚



## 山岳



## JAC英文ジャーナル



## 大川健三 蜀山女神

トレントの街はフェスティバル一色で、街角にはいたるところで案内板が目にとまりました。イベントの会場は催事別に数箇所に分かれていました。映像では「ヨセミテ・ハーフトームの記録的な登攀」など、講演では小生の「ヒマラヤの東チベットのアルプス」の他に、ポーランドのKrzysztof Wielickの登山体験、鼎談ではKurt Diemberger, Krzysztof Wielick, Con Nives Meroi, Ang Tshering Sherpaの4人が「ヒマラヤの魅力を語る」が注目を集めていました。

ブックフェアには日本からは小生が送付したJAC英文ジャーナル“Japanese Alpine New2009”, JAC『山岳2008, 2009』と中国四川省在住の大川健三さんの美しい写真集『蜀山女神(四姑娘山山塊)』の三種類だけが展示されていました。山と溪谷社と「岳人」に出展を促しましたが、無関心でなんのアクションも取らなかったようです。こんなところにも日本がいかに世界の登山界から孤立しているかが窺えます。残念なことです。

5月5日

静かなよい雰囲気の中80名ほどが私の講演に熱心に耳を傾けてくれました。 Kurt Diembergerさん夫妻、Ang Tshering(元ネパール登山協会会長) さんも見にきてくれました。ここにもJAC英文ジャーナルと『山岳』が展示されていて日本山岳会にたいする気配りを感じました。英語ーイタリア語の通訳にはLeccoからFabioさんが来てくれました。彼はプロの通訳ではありませんが聴衆の気持ちを掴んだいい通訳をしてくれました。

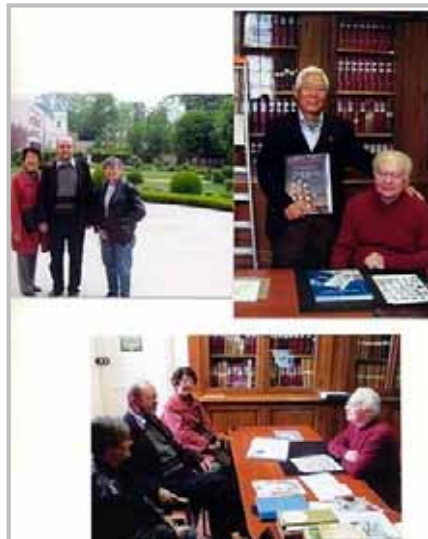


Kurt Diemberger

イタリアでの講演をつつがなく終えて振り返ってみると、イタリアには登山文化が風化せずしっかり根付いていることに強い印象を受けました。

パリにも行きました。「チベットのアルプス」の次のテーマである雲南・東南チベットへのフレンチ・ローマン・カトリックの宣教の足跡、苦闘の歴史の研究に関連し、パリ外国宣教会を訪れました。

LeccoのFabioさんが小生に目をつけたのはJAC英文誌 “Japanese Alpine News” や海外のジャーナルへの寄稿および拙書“*Die Alpen Tibets*”です。 英文で海外に発信を始めてから12年、ようやく欧米に「ヒマラヤの東ーチベットのアルプス」が定着しました。 65歳で企業戦士を卒業して10年という月日は新しいライフワークを一つ形にまとめ上げるには適当な時間だと思います。



パリ外国宣教会